

のは、私が中学1年のときで、軍事教練をやった最後の中学生でした。旧制札幌一中の3年のときに高校が新制に変わりました。それで新制高校1年になったわけです。受験もなく、結局同じ学校に6年になることになりました。旧制中学の方が進んでいましたから、同じことを高等学校の1年でもやる。ですから、毎日野球をやって、山登りをして遊んでいました。ただ、敗戦で価値観が完全にひっくり返りました。自分で考えて行動するといつも世の中の流れと少し位相がずれますが、敗戦の大変化の下では、何を信じていいかわからなくなりました。にわかな進歩にとまどうことも多くありました。

戦争中は船が好きで海軍に行くつもりでしたので、大学は東大の造船へ行きたいと思っていました。しかし、当時は食べるものがなく、北海道から出られるような状態ではありません。東京も人口制限を行っていて転入できない。弟も続いていましたので、北海道に残るということで、造船はなかったのですが北大に進学しました。最初は山が好きなので、地質か林学に行こうと思っていました。

土木屋になったのは、単純な話です。当時石狩川の大鉄橋、旭橋を設計した勅任技師の方の家に、子どもたちを集めて私が勉強を教えていました。そのお父さんの技師から、土木がいかにも面白いかという話を2日間くらい聞かされたんです。そして、商売で歩く山と遊びで歩く山は違うよ。土木をやつて、山を歩きたければ歩けばいいだろうと言われて、土木屋になりました。

土木に入つて、卒業論文は北海道最初のハイダム桂沢ダムのスピルウェイ（洪水吐）の模型実験でした。今

